

令和4年度学校経営の改革方針

学 校 名	津市立朝陽中学校	校長名	川原田 元
児童・生徒数	547 名	学級数	21 学級
		教職員数	46名

1 めざす学校像 学校教育目標

「仲間とともに学び合い、主体的に生きる生徒の育成」

・聴き合い学び合う学校 ・互いに認め合う学校・感性を高め合う学校

2 現状と課題

生徒は授業に意欲的に臨み、部活動や生徒会活動にも積極的に取り組んでいる。互いに聴き合う関係を大切にしながら、生徒が一人残らず課題に向き合う姿を目指し、コロナ禍にあっても、感染防止の対策を講じながら、公開授業研究や校内の授業公開、相互の授業参観を行うなど授業改善を進めている。

全国学力・学習状況調査の結果を見ると、「自分には良いところがある」と回答する生徒の割合が高く、自己肯定感が高い傾向にあり、学力も全国や県の平均に比べ良好な状況にある。一方、基礎学力が十分に身につけていない生徒、様々な生活背景に悩む生徒、学校に行きにくい生徒が一定数おり、個々の状況に応じたきめ細やかな対応が必要である。

教職員は、多忙な業務に追われながらも総勤務時間縮減を意識しつつ、生徒への細やかな指導や教材研究、部活動指導等に意欲的に取り組んでいる。

3 重点目標

- (1) 学び合いのある授業を充実させ、全ての生徒が自ら学びに向かう姿勢を育成する。
- (2) 新たな教育環境の効果的な活用を推進し、生徒の深い学びにつなげる。
- (3) 生徒会活動やボランティア活動、部活動など自主活動の充実を図る。
- (4) 地域・保護者との連携を推進する。
- (5) きれいな学校づくり、教職員の総勤務時間縮減を図る。

4 具体的な行動計画

(1) 学び合いのある授業の充実

- ・公開研究授業(年3回)、校内研究授業(年2回)、日常の授業公開(全教員年2回以上)を行う。
- ・身近にある「いじめ」や「差別」を自分自身の課題と捉え、その解決のために行動できる生徒を育てる。(「いじめや差別をなくそうとしている」と答える生徒の割合100%)

(2) 新たな教育環境の効果的な活用

- ・「ロイロノート」、「津市 e-Learning ポータル」の効果的な活用による自主学習を促す。
- ・全ての教科で、学びを深めるための効果的なタブレット端末の活用を推進する。

(3) 自主活動の充実

- ・自治の精神を養い主体的な生徒を育てるため、体験学習や学校行事を充実させる。(生徒の肯定的評価90%以上)

(4) 地域・保護者との連携

- ・学校運営協議会を年3回、役員会を年4回開催し、委員の意見を学校運営に反映する。
- ・地域の清掃活動や早朝ボランティアに積極的に参加する生徒を育てる。(ボランティアに参加した生徒数 延べ3,000人以上)

(5) その他

- ・教職員の総勤務時間の削減に向け、以下の項目に取り組む。
 - ①一人当たりの月平均時間外労働時間の削減(30時間以下)
 - ②一人当たりの年間休暇取得日数の増加(前年度比 3日増加)
 - ③月45時間を超える時間外労働者(年間延べ人数0人)
 - ④定時退校日を月2日程度設定する(定時退校できた職員80%以上)
 - ⑤会議時間の短縮(60分以内に終了する会議の割合80%以上)
 - ⑥部活動の適正な運営(津市部活動指針の遵守による休養日の設定100%)